

P4-7 がんプロフェッショナル養成セミナーの運営について



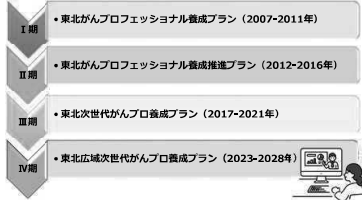
佐藤 真里乃¹⁾、阿部 舞子¹⁾、佐々木 真理子¹⁾、戸来 安子¹⁾、
寺澤 篤史¹⁾、井上 隆輔²⁾
東北大学病院 医療情報管理課¹⁾、東北大学病院 メディカルITセンター²⁾



I はじめに

文部科学省補助金事業 東北広域次世代がんプロ養成プラン 院内がん登録実務者セミナーの経過

- ・2009年度 文部科学省補助金事業がんプロフェッショナル養成プランのインテンシブコース（以下「がんプロ」）として開始
- ・2017年度 インテンシブコースから外れ、セミナーに変更
- ・2019年度 宮城県がん診療連携協議会がん登録部会（以下「がん登録部会」）と共催開始
- ・2020年度 COVID-19の影響によりweb方式で開催
- ・2023年度 東北がんネットワークの施設にも案内開始



II 目的

がんプロ運営の改善点は？

《 がんプロの目的 》

- がん登録の理論と実務の習熟
- がん疫学とがん予防の方法論の習熟
- がんの診断と治療に関する基本的事項の習熟
- がん登録情報を研究活用する方法の習熟

《 対象者 》

- がんの予防と治療に関する専門職または、学生

III 方法

《 集計対象 》

がん登録部会と共催する前は、当院の医師による1時間の講義であったが、共催後は2部構成とし、1部は講義、2部は演習で、がん登録部会の実務者が担当し演習問題の解説を行っている。分析は、2009年以降の第1部の講義内容・参加者数（院内のみ職種別）で行った。



IV 結果

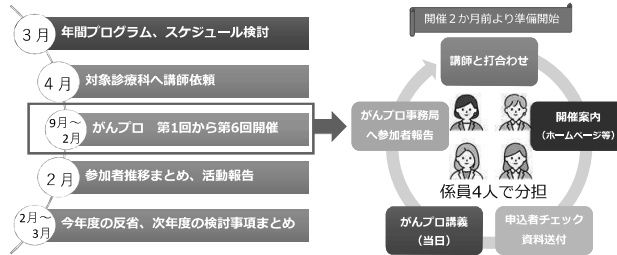
《 開催手順 》

がんプロの年間プログラムは、前年度の2月頃より、共催しているがん登録部会事務局と協議し、院内会議とがん登録部会に諮り、決定している。

各回のがんプロ開催準備は、開催の2か月前より行う。

まず講師との事前打合せを行い講義内容を確認、開催案内に関連部署に依頼、申込者を纏め、参加URL、資料を送付、講義終了後はがんプロ事務局へ参加者の報告をする。

図表1 がんプロ開催手順



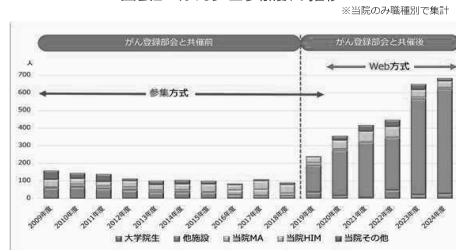
《 参加者の推移 》

図表2は、がんプロ開始時（2009年度）から、2024年度迄の開催方式と参加者の推移を、他施設、自施設（大学院生、MA：医師事務作業補助者、HIM：診療情報管理士、その他）別で表している。

共催した2019年度から参加者の増加はあったが、COVID-19のため、2020年度よりWeb開催にしたところ、大幅に参加者が増加した。

また、2023年度に東北がんネットワークの施設にも開催案内を行ったところ、参加者は更に増加し、2024年度は684名となった。

図表2 がんプロ参加数の推移

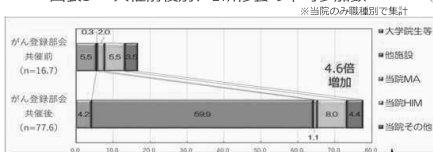


図表3は、1セミナーの平均参加者数をがん登録部会との共催前後で比較してみた。

総数は、共催前は16.7人、共催後は77.6人と4.6倍に増加していた。

当院の参加者を職種別でみると、単位修得が可能な大学院生と医師事務作業補助者が減少していた。

図表3 共催前後別、1研修会の平均参加数



《 講義内容の分析 》

図表4は、講義内容別平均参加数のベスト5を表している。共催前に参加数が多い講義内容は、1位：前立腺がん、2位：肝がん、3位：乳がん、共催後は1位：肺がん、2位：骨・軟部腫瘍、3位：白血病・悪性リンパ腫であり、主要5部位以外の講義への参加が増えたと見られる。図表5及び6は、参加者が減少した大学院生と増加した他施設の実務者のベスト5を集計したが、大学院生と他施設の実務者の興味がある部位は大きく異なることが分かった。

図表4 講義内容別平均参加数

順位	共催前		共催後	
	講義内容	平均(人)	講義内容	平均(人)
1	前立腺	27.0	肺	99.5
2	肝	24.5	骨・軟部	98.3
3	乳がん	21.5	白血病・リンパ腫	98.0
4	膵・十二指腸	19.0	乳がん	90.5
5	咽	19.0	肝	89.0

図表5 大学院生_平均参加数

順位	共催後		他施設 の順位
	講義内容	平均(人)	
1	胃	7.5	15
2	眼	7.0	18
3	大腸	7.0	19
4	腎臓・尿管	6.7	10
5	子宮頸・体部	6.5	12

図表6 他施設_平均参加数

順位	共催後		大学院生 の順位
	講義内容	平均(人)	
1	肺	83.5	16
2	骨・軟部	81.7	14
3	白血病・リンパ腫	78.5	10
4	肝	75.0	12
5	卵巣・卵管	70.5	9

V 考察及び今後について

本セミナーは、がん登録部会員の協力もあり、がん登録実務者には有意義な講義になったと考える。診断書作成を行っている医師事務作業補助者は、当日参加できない時は、録画を視聴し勉強できるが、大学院生が録画を活用した際にも単位修得することが可能か、またその条件をがんプロ事務局に相談した。

結果、視聴確認が取れると参加者としてカウントが可能と回答があり、2025年度は大学院生に対しこの内容を周知し、がんプロの本来の目的を果たす目途がたつた。

今後は煩雑な事務処理についても、受付、参加URLの送付等を効率化し、引き続き教育機関の大学病院として、意義のある充実したがんプロの運営に努めていきたい。

